

# 宝塚安倉上池のトンボ（続報その1）

新 家 勝

宝塚市安倉上池のトンボについては、第15巻第2号で報告したが、その後も、この池を訪れているうちに、更に数種のトンボを採集又は目撃したので報告させていただく。

## (1) *Ischunura senegalensis* Rambur アオモンイトトンボ

IX. 12. 1987 1♂, 1♀採集

東西の池を分ける農道の中程、魚釣の子供達が多いので、いつも足早に通り返る小さな草むらに、一見セスジイトトンボのようだが、動作の鈍いイトトンボがいる。よく見ると付近のマコモにも同じものがおり、♀がセスジイトトンボとは全く違う。採集して確かめたところ、アオモンイトトンボであったが、驚いたことに、VI. 14, 1986にセスジイトトンボだと思って撮影したスライドの中に本種が混じていた。そして、IX. 13, IX. 15, IX. 20, IX. 27, X. 3, X. 4にそれぞれ同じ場所で目撃できた。♀は♂との異色型が圧倒的に多く、♂・♀とも特定の草むらから余り移動しないようである。なお、1988年にも、VI. 5, VI. 11, VIII. 7, VIII. 11, VIII. 15, に目撃している。

## (2) *Ceylonolestes gracilis peregrinus* Ris ホソミオツネトンボ

V. 2. 1987目撃

安産の祈とうで有名な中山観音の池で沢山のホソミオツネトンボを見た帰りに、安倉上池でも1頭を目撃した。ここでは、1回のみ目撃であり、発生しているとは思えない。たまたま飛来したのではないかと思う。

## (3) *Trigomphus citimus tabei* Asahina タベサナエ

V. 10. 1987 目撃

愛宕山神社の参道で三脚を据えていたところ、向こうから風に乗ってサナエがやって来る。“何サナエかな”と思ったとたん、左手にとまってしまった。これも、たまたま通り合わせたものだろう。

## (4) *Sieboldius albardae* Selys コオニヤンマ

VI. 28. 1987 1♀採集（死体拾得）

VII. 2. 1988 1♀目撃（産卵中）

前者は、釣人が操る釣竿先端近くの水面に浮いているのを拾い上げたもので、胸部が破裂し

て死んでいた。釣人のいわく“そんなもん死んでまっせ”“ふーん、この人が釣竿で叩き落したな”と直感した。トンボがフナ釣りの邪魔をするのだと言うことは、以前からこの池の釣人たちから聞いていた。イトトンボのような小さなものでも、浮きの先端に止まると、フナの微妙な“引き”を見るうえで障害になるのだという。トンボが竿の近くに来るだけで、かんしゃくを起こす人がいるのだろう。たまたま、この池にやって来て、ひどい災難に会ったものだと思ひ、きれいに修復して標本にした。

後者は、岸の近く、ガガブタが広がる水面で打水産卵していたもの。オオヤマトンボにしては、飛び方が緩慢なので、よく観察したところコオニヤンマであった。

たまたま飛来するのだろうと思っていたのだが、この池でも発生するらしい。ちなみに、近畿のトンボ（関西トンボ談話会）によれば「幼虫は低地や丘陵地を流れる河川の上・中流域及び大湖の砂礫・泥底に生息する」とあり、この池で発生しても不自然ではない。

(5) *Epitheca marginata* Selys トラフトンボ

V. 23. 1987 目撃

市内では、西谷方面の池で普通に見られる。また、VI. 9. 1984 御殿山一丁目での記録があるが、平地ではほとんど見かけない。

(6) *Somatochlora uchidai* Foerster トラフトンボ

VII. 5. 1987 捕獲（種の確認のみ）

愛宕山神社の林間を攝食飛翔していたもの。灯笼の台石に上り、ネットを持って飛びついて捕獲した。

(7) *Orthetrum triangulare melania* Selys オオシオカラトンボ

VII. 25. 1987 目撃

VII. 10. 1988 目撃

いずれも愛宕山神社の森にいたもの。川面から中山にかけては普通に見られる。

(8) *Sympetrum infuscatum* Selys ノシメトンボ

IX. 27. 1987 目撃

X. 17. 1982に安倉中二丁目の安倉中池での目撃例がある。西谷方面では、かなり見られるが、平地では余り見かけない。

第15巻第2号で17種、今回8種、計25種のトンボについて報告したが、まだアキアカネ、クロスジギンヤンマ又はその雑種、オオキトンボなど、いる可能性のあるものを含めると、約30種になり、宝塚市内のトンボ60余種の半分近くになる。もっとも、この池で発生したものばかりではなく、たまたま通り合わせたものを含めてのことである。このうち、アキアカネは必ず見付かるだろう。クロスジ

ギンヤンマは、それらしきものをⅦ. 27. 1987に一度だけ目撃しているが、中山寺付近での発生時期から、かなり離れているいえ、捕獲していないので、スジボソギンヤンマか又はタイリククロスジギンヤンマか区別がつかない。オオキトンボは、近くの昆陽池にかなりいたとのことであり、この池でも可能性はありそうである。

1987年、1988年とも池を取り巻く環境は変わらない、相変わらず多いセスジイトトンボ、アオヤンマ、コシアキトンボ、コフキトンボそれにチョウトンボ、勇壮にパトロールするオオヤマトンボ、棒杭の上に水平に止まるウチワヤンマなど、いつも目を楽しませてくれる。このトンボの楽園は、当分、安泰であろう。

## アオドウガネの食草についての報告（続報その3）

新 家 勝

Ⅶ. 21. 1988 西宮市田近野町、旧武庫川堤防内のアメリカフヨウの蕾及びヘクソカズラの葉を食害していた。

Ⅷ. 11. 1988 宝塚市安倉北四丁目、愛宕山神社内のヤマノイモの葉を食害していた。

Ⅷ. 15. 1988 同上の場所でヤブカラシの葉を食害していた。